



都市とITが出合うところ

福田 知弘 大阪大学 大学院工学研究科 環境・エネルギー工学専攻 准教授

建築・都市とIT（情報技術）とは一見遠く離れた別々の分野のように思えなくもない。しかし、情報社会の時代となり、建築・都市とITとは、計画、設計、施工、運用の各フェーズにおいて、互いの存在をますます無視できなくなっている。本連載では、都市とITとの両者が出合うところや課題について、魅力的な国内外の各地をぶらりと街歩きしながら考えてみよう。

第36回 水木しげるロード (1)

水木しげるロード

鳥取県境港市の水木しげるロードは、JR 境港駅から本町アーケード商店街までの延長約800mの道路と沿道店舗などで構成されている。1992年、商店街の再活性化を目指して、境港市出身の漫画家・水木しげるさんの代表作である「ゲゲゲの鬼太郎」に登場する妖怪などのブロンズ像を歩道内に設置し、親しみの持てる街路としての整備が開始された（図1-3）。実はオープン早々、ブロンズ像が盗まれ、そのことが全国に報道されたことがきっかけで、水木しげるロードの知名度が高まったようだ。

その後も水木しげるロードを愛する人々のたゆまぬ努力とともに、2003年には「水木しげる記念館」がオープン、「妖怪のまち」としての人氣が定着してきた。さらに、「ゲゲゲの鬼太郎」のアニメ、映画、そしてドラマ「ゲゲゲの女房」の大ヒットにより、2010年には過去最高となる372万人が水木しげるロードを訪れた。境港市の人口は3.4万人であるから、100倍を優に超える人々が来訪したことになる。その後も、年間200万人前後の来訪者で推移し、2016年5月には通算3000万人を突破した（図4）。

水木しげるロードのシンボルであるブロンズ像は、当初23体でスタートしたが、年々その数を増やし、現在は153体までになった。また、沿道の多くの店舗は、妖怪に関連するグッズやお土産を販売しており、妖怪の着ぐるみキャラクターも毎日登場して、「無料のテーマパーク」として賑わいをみせている（図5）。

2013年、境港市の宝である水木しげるロードの賑わいをこれからも続けていくため、市長がリニューアル事業の着手を宣言した。「誰もが訪れたいくなるおもてなしとエンターテインメントのロードづくり」を基本理念として、「妖怪の魅力を堪能できる世界で唯一のロード」、「車が主役の道から人を大事にする道」としてリニューアルを実施することが決定した。

リニューアルプロジェクト

2014年度より、基本計画および基本設計の策定に入った。基本構想を具現化するために、主に次の内容となった。

- 歩道**：誰もが安心して安全に歩ける歩道とするために、車道を一方通行化して、さらに道路線形を蛇行させることで、変化に富む広い歩道空間を確保する。
- 滞留スペース**：広がった歩道には、歩行者に楽しみながらくつろいでもらうため、多くの滞留スペースを設ける。この滞留スペースを活用して、ミニイベントなどを計画する。
- 交差点**：バリアフリー化を進めるため、交差点部分の車道の高さを歩道の高さに揃えて、歩道と車道の段差を解消する。
- ブロンズ像の配置**：ブロンズ像は追加しながら設置してきた結果、テーマ性のない配置となっている。さらに、ブロンズ像との記念撮影は訪問者の楽しみのひとつであるが、これに欠けた配置となっている。そこで、「水木マンガの世界」、「森にすむ妖怪たち」、「神仏・吉凶を司る妖怪たち」、「身近なところにひそむ妖怪たち」などのグループに分け直して、広がった歩道の上に再配置する。記念撮影がしやすいように、ブロンズ像の向き、間隔、背景なども考慮する。さらに、ブロンズ像を新たに18体設置することで、リニューアル完成後は171体となる。
- 街なみの整備**：水木作品で描かれた昭和の町並みなどをテーマとして、統一感のある街なみの整備の推進を目指す。
- 夜間照明演出**：水木しげるロード全線に渡り、これまでになく様々な仕掛けを施した夜間照明演出を実施する。
2015年度は、詳細設計と並行しながら、リニューアルプロジェクトの内容を最大限に盛り込んだ社会実験を実施した（図6）。これは、リニューアル後の状況を模擬実験すると共に、実験で得られた結果を詳細設計に反映させて、地元住民の方などとの合意形成を図るためである。主な内容は以下の通りである。
- 道路空間の再配分調査**：車道を2車線から1車線に変更して、歩道を拡げる。広がった歩道には、歩行



福田 知弘 (ふくだ ともひろ)

1971年兵庫県加古川市生まれ。環境設計情報学が専門。大阪大学大学院工学研究科環境工学専攻博士後期課程修了、博士(工学)。大阪府河川整備審議会委員、神戸市都市景観審議会委員、CAADRIA (Computer Aided Architectural Design Research In Asia) 学会元会長ほか公職多数兼務。NPO法人もうひとつの旅クラブ理事、大阪旅めがねエリアクルー。「光都・こうべ」照明デザイン設計競技最優秀賞受賞。主な著書に「VRプレゼンテーションと新しい街づくり」「はじめての環境デザイン学」など。ふくだぶろーぐは、<http://fukudablog.hatenablog.com/>

者の滞留スペースを確保して賑わいを創出する。自転車通行帯を設けて、歩車分離を図る。

- 一方通行等調査**：区間内は一方通行として、う回路を設定する。車道には、スラローム、ランプ、狭さを設けて、車両の速度低減を図る。沿道商業施設には、必要な荷捌きスペースを確保する。
- 賑わいの創出**：拡幅した歩道の滞留スペースの一部

に人工芝を敷き、ミニイベントを実施する。その他の滞留スペースにはテーブル、ベンチを設置して、休憩場所として活用する。車道と歩道の仕切りには花のプランターを設置する。

この翌年となる2016年度、筆者は、この水木しげるロード・リニューアルプロジェクトに参加させて頂くことになった。次号でご紹介したい。



図1 妖怪ブロンズ像



図4 賑わう水木しげるロード (写真：境港市)



図2 沿道店舗はユーモアたっぷり



図5 鬼太郎と



図3 目玉おやじ街灯



図6 社会実験の様子 (写真：境港市)

© 水木プロ